

2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2022年8月10日

上場会社名 株式会社松屋アールアンドディ 上場取引所 東
 コード番号 7317 URL http://matsuyard.co.jp
 代表者(役職名)代表取締役社長CEO (氏名)後藤 秀隆
 問合せ先責任者(役職名)常務取締役CFO 経営管理部長 (氏名)松川 浩一 (TEL) 0779-66-2096(代表)
 四半期報告書提出予定日 2022年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	1,434	0.8	100	△9.8	175	70.2	111	50.5
2022年3月期第1四半期	1,423	32.0	111	89.3	103	94.3	73	49.5

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 329百万円(143.9%) 2022年3月期第1四半期 135百万円(688.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	21.10	20.95
2022年3月期第1四半期	14.14	13.85

(注) 当社は2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり四半期純利益」および「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	7,795	3,541	45.4
2022年3月期	6,889	3,237	47.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 3,541百万円 2022年3月期 3,237百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	0.00	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,166	9.3	410	15.5	435	6.5	315	90.6	59.74

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 予想1株当たり当期純利益は、予想親会社株主に帰属する当期純利益を2023年3月期第1四半期末の発行済普通株式数(自己株式除く)で除して算出しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	5,275,600株	2022年3月期	5,275,400株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	178株	2022年3月期	178株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	5,275,323株	2022年3月期1Q	5,228,024株

(注) 当社は2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」は、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が穏やかに回復しており、社会経済活動の正常化が進んでおります。一方、国際社会の混乱による原材料価格やエネルギー価格の上昇、日米の金融政策の違いに起因する急激な円安の進行などによる景気の下振れには留意が必要です。

このような状況の中、当社グループでは、新型コロナウイルスの感染拡大を背景とした上海のロックダウンや半導体不足の影響によりメディカルヘルスケア事業においては血圧計腕帯の受注が一時的に減少したほか、セイフティシステム事業においても自動車工場の稼働停止によりカーシートの受注が減少したものの、6月以降はメディカルヘルスケア事業においても受注が回復したほか、セイフティシステム事業においても、エアバッグにおいて新規取引先の量産開始やインド向けの大型レーザー裁断機の出荷がされるなど堅調に推移しました。

そのほか、血圧計腕帯においては、新製品開発や各種経営上の課題に協働でかつ速やかに取り組むため、2022年5月にオムロンヘルスケア株式会社との資本業務提携を強化し、サプライチェーンの安定化に向けた取組を開始しました。また、リハビリロボット事業の医薬品医療機器法の認証取得など将来に向けた取組を行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,434,676千円（前年同期比0.8%増）、営業利益100,747千円（前年同期比9.8%減）となりました。また、営業外収益では為替差益を77,685千円計上したことにより、経常利益175,356千円（前年同期比70.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は111,315千円（前年同期比50.5%増）となり、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は第1四半期においては過去最高となりました。

当第1四半期連結累計期間における各セグメントの概況は、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントの区分を変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

(メディカルヘルスケア事業)

メディカルヘルスケア事業につきましては、上海におけるロックダウンによる物流網の停滞や半導体不足の影響を受け、血圧計腕帯の受注が一時的に減少したものの、6月以降ロックダウンが解除され、受注が回復しました。

以上の結果、連結子会社への売上高を除いた外部売上高は972,789千円（前年同期比12.6%減）、セグメント利益は199,106千円（前年同期比24.1%減）となりました。

(セイフティシステム事業)

セイフティシステム事業につきましては、新型コロナウイルス感染拡大や半導体不足の影響による自動車工場の稼働停止による影響でカーシートの生産量が減少しましたが、エアバッグにおいては新規取引先からの受注が増加したほか、インド向けの大型レーザー裁断機の出荷により売上高が増加しました。

以上の結果、連結子会社への売上高を除いた外部売上高は458,829千円（前年同期比52.4%増）、セグメント損失は24,079千円（前年同期はセグメント損失76,468千円）となりました。

(その他事業)

その他事業につきましては、連結子会社への売上高を除いた外部売上高は3,057千円（前年同期比66.6%減）、セグメント損失は3,856千円（前年同期はセグメント利益1,810千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて479,278千円増加し、6,019,796千円となりました。これは主として受取手形、売掛金及び契約資産が119,697千円が減少したことに対して、現金及び預金が350,687千円、商品及び製品が83,058千円、原材料及び貯蔵品が166,482千円がそれぞれ増加したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて426,974千円増加し、1,775,639千円となりました。これは主として建設仮勘定が411,278千円それぞれ増加したことなどによるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて906,252千円増加し、7,795,436千円となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて577,012千円増加し、3,765,949千円となりました。これは主として支払手形及び買掛金が136,015千円、受注損失引当金が10,738千円がそれぞれ減少したことなどに対して、短期借入金が530,000千円、未払金が169,414千円、賞与引当金が18,608千円がそれぞれ増加したことなどによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて25,733千円増加し、488,273千円となりました。これは主としてその他固定負債が23,004千円増加したことなどによるものであります。

この結果、当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて602,745千円増加し、4,254,222千円となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は3,541,214千円と、前連結会計年度末に比べて303,506千円増加となりました。これは主に利益剰余金の配当により26,376千円減少したものの、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ85千円、為替換算調整勘定が218,397千円増加したこと、並びに親会社株主に帰属する四半期純利益を111,315千円計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の47.0%から45.4%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日付で「2022年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において公表いたしました業績予想と変更はございません。

なお、当第1四半期連結会計期間末現在、業績は概ね予定どおりに進捗しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,492,481	1,843,169
受取手形、売掛金及び契約資産	1,367,979	1,248,281
商品及び製品	760,416	843,474
仕掛品	616,249	616,837
原材料及び貯蔵品	1,167,433	1,333,916
その他	135,957	134,116
流動資産合計	5,540,518	6,019,796
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	190,137	194,173
機械装置及び運搬具（純額）	65,331	67,406
土地	115,622	120,496
使用権資産（純額）	293,255	277,649
建設仮勘定	404,627	815,905
その他（純額）	117,087	137,586
有形固定資産合計	1,186,062	1,613,218
無形固定資産	4,840	4,612
投資その他の資産		
繰延税金資産	57,814	49,069
その他	99,948	108,738
投資その他の資産合計	157,763	157,808
固定資産合計	1,348,665	1,775,639
資産合計	6,889,184	7,795,436

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	663,266	527,251
短期借入金	1,300,000	1,830,000
1年内返済予定の長期借入金	37,032	35,406
未払金	784,310	953,725
未払法人税等	58,020	60,119
賞与引当金	32,817	51,426
受注損失引当金	11,530	792
その他	301,958	307,228
流動負債合計	3,188,936	3,765,949
固定負債		
長期借入金	48,572	40,940
退職給付に係る負債	108,228	110,218
繰延税金負債	44,719	53,090
その他	261,019	284,024
固定負債合計	462,539	488,273
負債合計	3,651,476	4,254,222
純資産の部		
株主資本		
資本金	305,619	305,704
資本剰余金	197,971	198,056
利益剰余金	2,668,845	2,753,784
自己株式	△479	△479
株主資本合計	3,171,957	3,257,066
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	65,750	284,147
その他の包括利益累計額合計	65,750	284,147
純資産合計	3,237,707	3,541,214
負債純資産合計	6,889,184	7,795,436

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	1,423,787	1,434,676
売上原価	1,090,620	1,126,069
売上総利益	333,166	308,607
販売費及び一般管理費	221,447	207,860
営業利益	111,718	100,747
営業外収益		
受取利息	81	105
受取配当金	0	0
為替差益	78	77,685
その他	2,094	7,910
営業外収益合計	2,255	85,702
営業外費用		
支払利息	10,828	10,939
その他	96	153
営業外費用合計	10,925	11,093
経常利益	103,049	175,356
税金等調整前四半期純利益	103,049	175,356
法人税、住民税及び事業税	33,690	45,334
法人税等調整額	△4,584	18,706
法人税等合計	29,106	64,041
四半期純利益	73,943	111,315
親会社株主に帰属する四半期純利益	73,943	111,315

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	73,943	111,315
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	61,256	218,397
その他の包括利益合計	61,256	218,397
四半期包括利益	135,199	329,712
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	135,199	329,712

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	51,968	20.00	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

(注) 1. 2021年6月29日定時株主総会による1株当たり配当額には、特別配当10.00円が含まれております。

2. 2021年10月1日を効力発生日として普通株式当たり2株の割合で株式分割を行っております。「1株当たり配当額」につきましては、当該株式分割前の金額を記載しております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	26,376	5.00	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについては、前連結会計年度の有価証券報告書(2022年6月30日提出)の追加情報に記載した内容から重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症による影響は、いまだ不確実な要素もあるため、状況に変化が生じた場合には、当社グループの財政状態、経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	メディカル ヘルスケア	セイフティ システム	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,113,646	300,990	9,149	1,423,787	—	1,423,787
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,113,646	300,990	9,149	1,423,787	—	1,423,787
セグメント利益 又は損失(△)	262,476	△76,468	1,810	187,819	△76,100	111,718

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△76,100千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	メディカル ヘルスケア	セイフティ システム	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	972,789	458,829	3,057	1,434,676	—	1,434,676
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	972,789	458,829	3,057	1,434,676	—	1,434,676
セグメント利益 又は損失(△)	199,106	△24,079	△3,856	171,171	△70,423	100,747

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△70,423千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、従来「縫製自動機事業」「縫製品事業」の2区分を報告セグメントしていましたが、当第1四半期連結会計期間より、「メディカルヘルスケア」「セイフティシステム」並びに「その他」の3区分に報告セグメントを変更することとしました。

これは当社グループでは、「Safety & Healthcare を通して科学技術の向上を図り人類に貢献する。」を企業理念としていることから、企業理念に即した経営管理を行うことを目的として変更したものであります。

「メディカルヘルスケア」では主に、血圧計腕帯やメディカルヘルスケア関連向け裁断機及び縫製自動機の開発・製造・販売を、「セイフティシステム」では主にカーシートやエアバッグなどの自動車安全部品の製造・販売や自動車部品業界向けの裁断機や縫製自動機の開発・製造・販売を、また「その他」ではその他(食品、家具など)業界向けの裁断機及び縫製自動機の開発・製造・販売を行っております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。